

(様式例1)

小学校の指導改善プラン (学校用)

九段小学校

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題				○成果	▲課題
	第4学年	第5学年	第6学年		
国語	○基礎の目標値に対する達成率は93.7%であり、概ね定着している。 ▲ローマ字の読み書きと、文章の読みについての課題がある。	○基礎の達成率は91%であり、既習事項は概ね定着している。 ▲説明的文章の定着に課題がある。	○基礎の達成率は94%であり、既習事項は概ね定着している。 ▲書く力での二極化が大きく、定着できていない児童への手立てが必要である。		
社会	○活用問題の正答率は、前年度に比べ、15.8%上昇した。 ▲知識理解の観点の達成率が62%と、全体への指導が必要である。	○活用については、昨年度の達成度調査より1.3%上回った。 ▲社会的な思考・判断・表現の定着のために、全体への補充が必要である。	○社会的な思考の達成率が90%と高いが、D層の正答率が低い。 ▲D層児童への社会的な思考・判断・表現について個別指導が必要である。		
算数	○教科全体の達成率は、92.4%と既習事項は概ね定着している。 ▲円や球などの図形に関する正答率が50.6%と課題がある。	○知識・理解の定着率は89.6%と高く、定着している。 ▲活用は正答率が低く、二極化している。	○技能の達成率が98%と非常に高く、学年として定着している。 ▲数学的思考での二極化が著しく、集団指導での補充が必要である。		
理科	○基礎の達成率が93.7%と、既習事項は概ね定着している。 ▲光の性質の正答率が61.2%と低く、全体への補充が必要である。	○季節と生物の正答率が84%と高い。 ▲科学的な思考・表現が29.9%であり、全体を通じて定着が必要である。	○基礎の達成率が92%であり、既習事項は概ね定着している。 ▲科学的な思考・表現についてのD層児童への個別指導が必要である。		
授業改善の方針					
国語	・毎月、朝の15分を「漢字チャレンジ」の時間として、本校独自の漢字検定を行う。また、外部機関の準会場として漢字検定を実施し、漢字の定着を図る。また、「辞書は友だち」として、辞書の使い方を掲示し、常に辞書を身近に置き、分からない言葉はすぐに辞書を引く習慣を身に付け、語彙力・表現力・読む力の基礎を高められるようにする。 ・書く力を高めるために、低学年では日記や視写に取り組む。中・高学年では、川柳やスピーチ原稿などの指導を充実させたり、家庭学習で日記を取り入れたりする。また、目的意識をもって書く活動ができるよう、作文集「九段の子ども」を発行し、全学年が作文に取り組む。第6学年では、全員「千代田ジュニア文学賞」に応募する。 ・論理的思考力を高めるため、校内研究でプログラミング学習を行う。また、朝読書では、文章の構成や展開を捉えたり、や、内容や要旨の理解を深めたりするため、文学的な文章や説明的な文章に加え、実用的な文章など幅広い読書を推進する。				
社会	・地図帳や、統計・年表などの資料を活用したり、白地図や新聞にまとめたりする活動を充実させる。 ・社会的事象について考えたことを、資料を用いて説明したり、根拠や理由などを明確にして議論したりする活動を行い、それらの力を養う。				
算数	・低学年では、週3時間ティームティーチングで、第3～6学年では、習熟度別で少人数指導を行う。十分に理解しているクラスでは、「算数オリンピック」と称した発展的な問題に取り組ませる。理解が不十分なクラスでは、「東京都ベーシックドリル」を活用し、定着を図る。また、毎月土曜授業の際には、全学年「東京ベーシックドリル」に取り組む。 ・思考力・判断力・表現力の育成のため、問題解決場面では、自分の考えをノートに書いて説明したり、ペアやグループで伝え合ったりする活動を取り入れる。また、コンピュータを活用し、プログラミングを体験しながら論理的思考力を養う。				
理科	・実験・観察の結果を基に、結論を導き出せるよう、スモールステップで指導を行い、問題解決の力を高める。 ・実験・観察から考察したことなどを意見交換したり、根拠を基に議論したりして、対話的で深い学びの実現を図る。				
音楽	・グローバル化する社会を視野に入れ、音楽の人類遺産ともいえる時代や地域を越えて伝えるべき楽曲と出会い・触れる機会を拡充させ、豊かな感性の育成を図る。各自の個性や技能を生かし高めることができるよう、個別・グループ・全体等の場と、効率的な時間設定の工夫を組み合わせ、学習を展開する。				
図工	・創造的思考力の一層の向上のために、どの題材においても発想の視点について分類し、明確に提示する。 ・プログラミング教育との関連を図った題材開発・改善を図る。 ・児童にとって身近な生活との関連を図った題材を意図的に取り上げ、造形的なものの方の見方・考え方を広げ、深める学習を充実させる。				
家庭	・実習等のレポート作成や考察、思考したことを発表するなどの言語活動を充実する。また、情報通信ネットワークを活用して調べたり、気付いたことをコンピュータで共有したりするなどして、主体的・対話的な学びを実現する。				
体育	・投力の改善を意図して、年間指導計画に投の運動(遊び)を位置付ける。また、前後の単元にボール運動領域を計画し、身に付けた能力を生かして学習に取り組めるよう意図する。 ・課題解決に向けて児童同士で協力して取り組めるような学習展開の工夫を行う。				
外国語	・アルファベットの順番や文字を定着させるため、短時間学習の際に繰り返し取り組むようにする。 ・高学年の外国語活動では、振り返りの時間を設け、児童が自分で到達度を確認できるようにする。 ・ICTを活用して「聞く・読む」の習熟を行い、児童同士でのやり取りを通して「話す・書く」の習熟を十分に行う。				